

科学文化センターの展示

朴木英治

科学文化センターと聞いてすぐに思い出すのは、なんですか。たいていの人は、星座や星の話を見るプラネタリウムと、2階にある展示室を最初に思いうかべるのではないのでしょうか。それ以外としては自然教室や科学教室などでしょうか。

科学文化センターでは、実際には4つの仕事をしています。一つは富山の自然を調べるため、動物や植物、昆虫、岩石や化石などの資料を集め、標本として保存する「収集保管事業」です。次は、集めた標本や、いろいろな調査によって富山の自然を考えたり、天文観測などをしたりする「調査研究事業」です。この2つの仕事は博物館の基礎となる仕事です。そして、これらの仕事の成果が、自然教室や科学教室などの「普及教育事業」や、みなさんもよく知っている、「展示事業」の中に出てきます。

今回はこれら4つの仕事の中から展示の仕事を紹介します。

科学文化センターには、いつでも見れる常設の展示室として「自然史展示室」「季節展示室」「理工展示室」の3つと、期間を決めて特別展や館蔵品展、写真展などをする「特別展示室」もあります。

このほかに変わった展示の形として「かがくの広場」があります。科学文化センターには博物館の専門職員である学芸員が12名いますが、このう

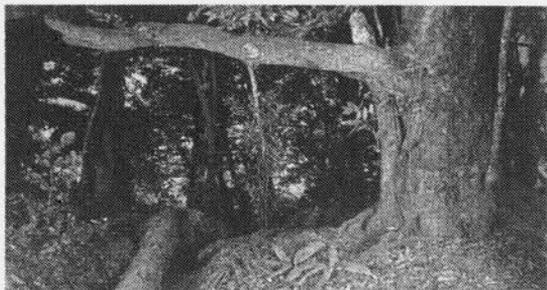


図1. 自然史展示室 —ジオラマ—

ちの自然史と理工部門の9人の学芸員が1週間交替で、それぞれの専門分野に関係した内容の話や実験を、この「かがくの広場」で行なっています。ここでは、お客さんと学芸員との間の楽しいやりとりがあり、学芸員が「生きた展示」になっています。

これらの展示の中に出てくる情報は、学芸員の研究成果ばかりではなく、ほかの研究者の研究の成果や関係する学会での学説など、富山の自然を知るために必要と思われるものを集めています。また、展示している標本類は、学芸員が日頃集めているたくさんの標本の中の一部が使われています。

それでは、科学文化センターの常設の展示室である「自然史展示室」と「季節展示室」「理工展示室」をちょっと見てみましょう。

「自然史展示室」は面積が600㎡と最も広い展示室で、入り口にあるジオラマがシンボルです。



図2. 2階展示室案内

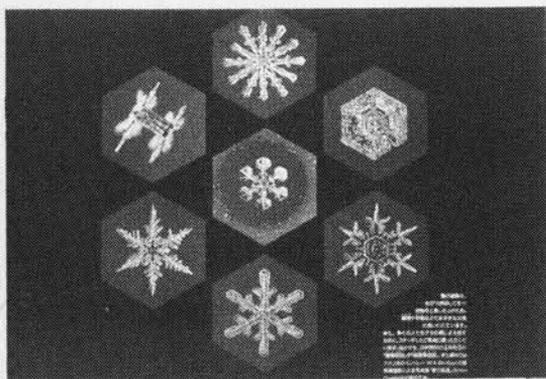


図3. 理工展示室 ー雪の結晶ー

このジオラマは、わたしたちのご先祖様が住みつく以前の、富山の平野部や丘陵地帯の自然の様子を想定して再現したものです。どうですか、現在の平野部の様子とはずいぶん違うでしょう。自然史展示室の前半は、過去から現在の自然の様子の変化を展示し、そこから人間の生活と自然とのかわりあいを紹介しています。後半は、化石や岩石の展示をとおして、富山の地学的ななりたちや、もっと広く地球の歴史を紹介しています。大きなナウマン象や肉食恐竜のアロサウルスの化石が目につきます。

この後半部分の展示は、出口に向かうほど歴史が古くなります。そして、最後の天文展示コーナーでは太陽系の誕生のようすや、そのときのなごりとも言える隕石の展示をしています。ここでは、現在から、太陽系の誕生までの46億年もの間のできごとのほんの一部を、わずか20mほどの距離のなかにギュッと押し込んでいます。

次に「季節展示室」を見てみましょう。

ここは平成1年の7月にできたばかりのコーナーで、富山の四季を、写真やビデオ、ミニジオラマで紹介しています。この展示の特徴は季節ごとに内容を変えることで、その時の季節と、次に来る季節の様子を部屋の両側の壁面で紹介しています。

三番目は「理工展示室」です。

「理工展示室」では、実験をしたりパソコンにさわったりしながら楽しむことができます。

館がオープンした最初の展示は「水の働きとエネルギー交換」というテーマで、水が豊富な富山県にちなんで、水車などの水を動力とする道具や、

電気エネルギーから熱や光などへの変化の仕組みやコンピュータに関することまで展示していました。

そして、館のオープン5年半後の昭和61年5月に全体を展示替えしました。最初の展示の展示装置の一部は現在も2階ロビーに置いてあります。

現在の展示は「水と雪氷の世界」というテーマで、わたしたちの暮らしの中でなくてはならない水と、富山での冬の生活で絶対にはなれることのできない雪や氷について、科学の目をとおして紹介しています。また、これらの水の展示を通して、より広く科学の世界の楽しさを紹介しています。

水も、雪や氷も、化学式で書くと同じ H_2O です。つまり、ここは全国の博物館の中でもあまり例のない、水・ H_2O の展示室なのです。

最初のコーナーは、水を科学するコーナーです。ここでは、水そのものの物理的・化学的な性質のほか、水を使って、液体の性質も紹介しています。水の流れて静電気を起こす水滴発電装置や、水の電気分解装置などいろいろあります。

まん中の部分は水と遊ぶコーナーです。水ではかる体重計や、超音波を使って波紋を作る装置などがあります。また、その横には気象衛星「ひまわり」から雲の画像を受信する装置や昭和26年からの富山の天気を調べることのできる天気調べコンピュータもあります。

一番奥は、雪と氷のコーナーです。美しい雪の結晶のでき方や氷の性質などを調べることができます。ここでは、富山の雪の特長なども紹介してあります。

最後に、もうすぐ自然史展示室と理工展示室の展示替えの設計を始める予定です。新しい展示の中では、開館してからこれまでに集めた富山の自然についての資料や研究成果が、標本や装置、解説パネル、そして、ビデオやパソコンなどの情報機器を利用してふんだんに紹介されます。

そして、これらの展示をとおして、富山の自然に関する情報と共に、外からは見えない学芸員の資料集めや研究などの仕事も知ることができます。

(ほうのき ひではる 化学担当学芸員)